

会議飲料ウォッチャー2017-2018 結果概要

【実施期間】 2017年9月11日（月）～2018年3月31日（土）

【投稿件数】 35件 【会議イベント件数】 31件

【内訳】

省庁主催の会議	7件
自治体主催の会議	7件
NGO・民間団体主催の会議	1件
省庁主催のイベント	3件
自治体主催のイベント	1件
NGO・民間団体主催のイベント	12件

【会議における飲料提供方法】

各自に配布 15（100%）

セルフサービス 0

【会議における飲料の容器】

使い捨て 10

内訳：ペットボトル + プラスチックカップ 2

ペットボトル + 紙コップ 3

ペットボトル 3

カートン缶 2

リユース 5

内訳：陶磁器 3

グラス 1

リユースカップ 1

【イベントにおける飲料提供方法】

各自に配布 10

セルフサービス 6

【イベントにおける飲料の容器】

使い捨て 5 リユースと使い捨ての併用 1 リユース 10

内訳： ペットボトル 3 紙パック 2 紙コップ 1

陶磁器 4 グラス 5 リユースカップ 4

【傾向分析】

- ・省庁、自治体の会議は、ペットボトルが主流であり、さらにその半分以上が、紙コップやプラスチックカップを添えており、二重に使い捨て容器を使用している。
- ・省庁、自治体でリユース容器を使用していたのは、環境省、自治体の廃棄物関連会合のみであった。それ以外の省庁、自治体では、エネルギーや環境に関連する会議でも使い捨て容器を使用していた。
- ・イベントについては、NGO や民間団体主催の事例も多かったので、比較的リユースの容器の比率が多かった。しかし、中には、市民団体主催でエネルギーや海ごみをテーマにしていながら、ペットボトルで飲料を提供しているイベントもあった。

【注目事例】

<改善が求められる例>

- ・経済産業省 エネルギー情勢懇談会
エネルギーをテーマとしながら、毎回ペットボトルの水と紙コップが提供された。
- ・消費者庁 倫理的消費調査研究会
倫理的（エシカル）消費をテーマとしながら、毎回ペットボトルの水と紙コップが提供された。
- ・目黒区 自然観察園環境委員会
自然教育をテーマとしながら、ペットボトルの水（輸入ミネラルウォーター）とプラスチックのカップが提供された。



<評価できる例>

- ・奈良市 環境首都創造フォーラム 等
セルフサービスでお茶をグラスで提供していた。（類似事例他にもあり）



<改善が見られた例>

- ・環境省 中央環境審議会総合政策部会
6月の会合ではペットボトルが提供されていたが、委員が改善を求める発言をしたところ、次回（8月）から改善された。



【調査を終えて】

- ・データ数は少ないが、象徴的な事例を収集することができた。
- ・会合に出席した委員本人から提供された写真もあり、問題意識を持っている出席者は少なくないことを表している。
- ・委員の提案により改善された事例もあり、声を出すことの重要性が確認できた。

以上